

第3次対がん総合戦略研究事業
「がん対策推進基本計画とがん診療連携拠点病院の
小児がん診療の適用に関する研究」
「小児がんモデル病院（仮称）の要件について」

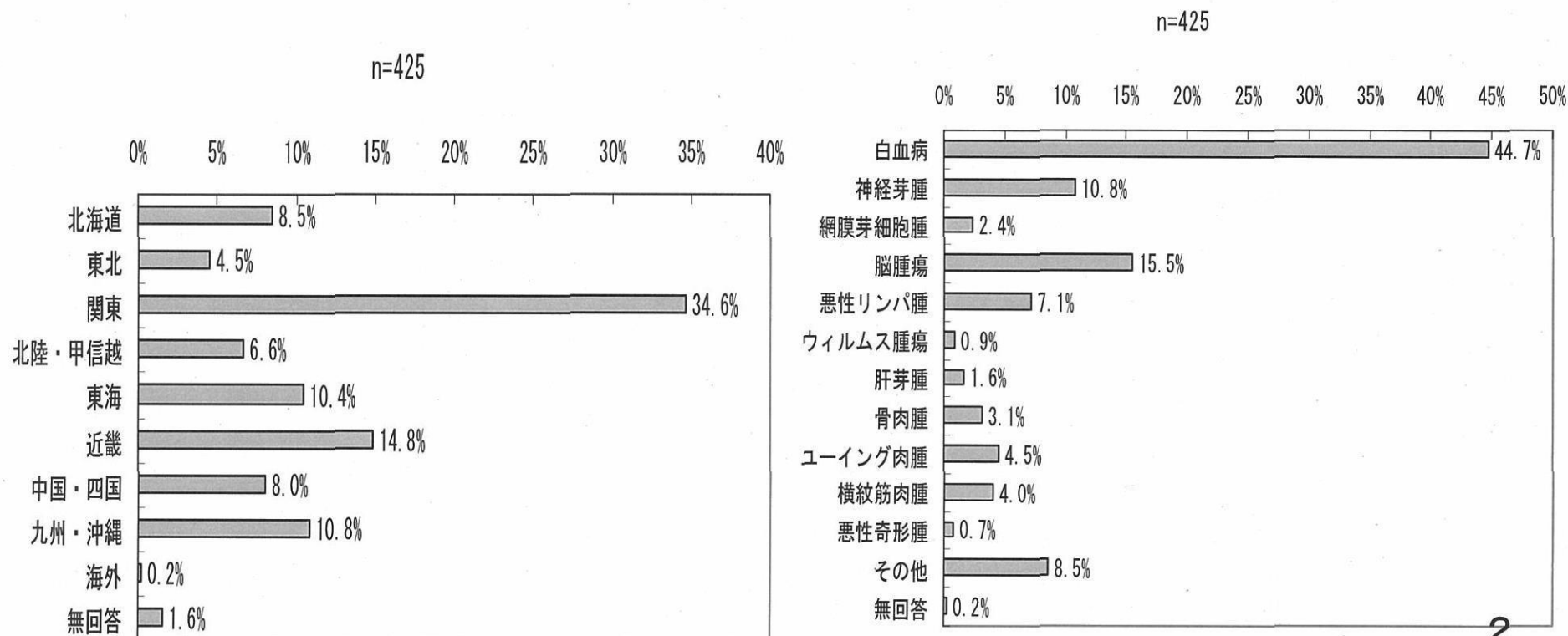
主任研究者
大阪市立総合医療センター
小児医療センター血液腫瘍科
原 純一

がん対策推進基本計画とがん診療連携拠点病院の小児がん診療の適用に関する研究

- 目的
 - － がん診療連携拠点病院指定要件を小児がん診療に最適化する
- 方法
 - － 英国調査
 - 公的財源による医療
 - 拠点病院、連携病院、訪問看護制度によるすきまのない小児がん医療体制
 - － 施設調査、意識調査、患者アンケート
 - － 小児がん診療の拠点化、集約化の阻害要因の抽出と解決方法の検討
 - 医療者側要因、施設側要因、患者側要因
 - － 望ましい要件案の提示(平成25年度)
 - 当初目標
 - 中・長期目標

がんの子供を守る会アンケート調査

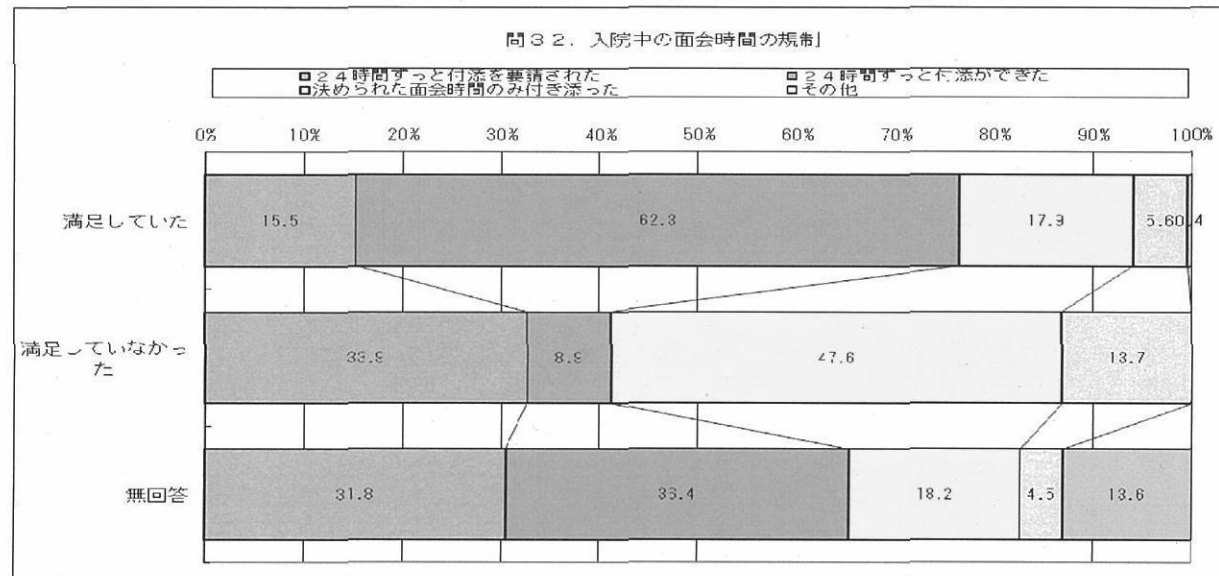
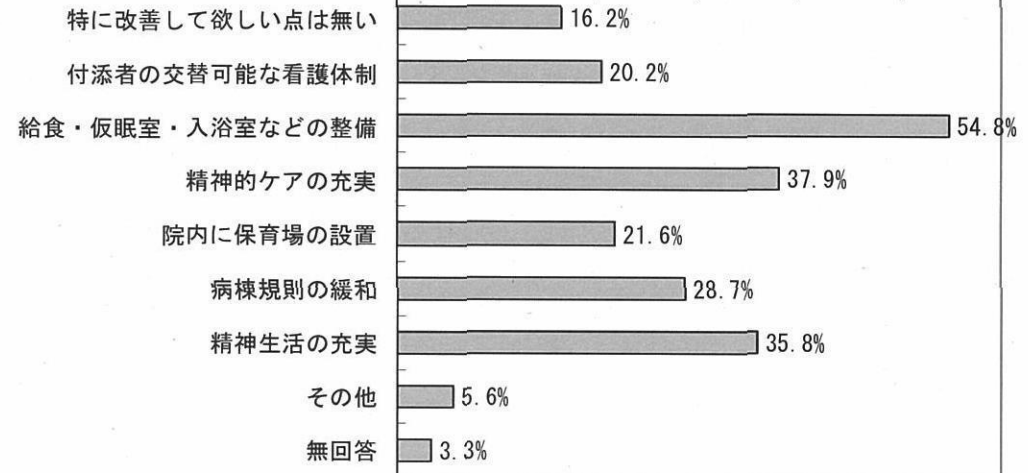
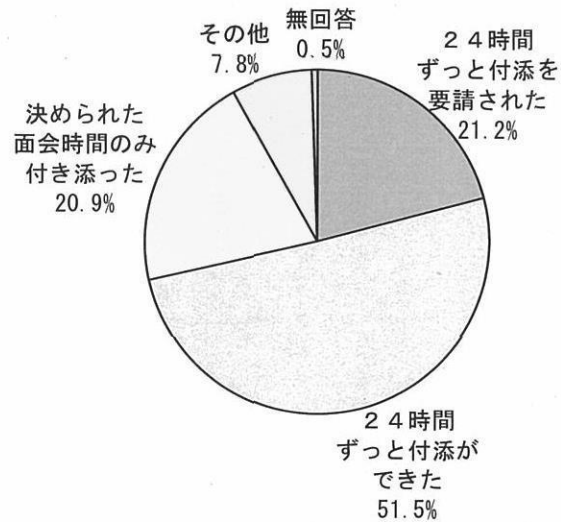
- 対象
 - － 会員、他の患者団体、医療費助成を受けた患者
- 調査期間
 - － 2011年7月～10月
- 回答
 - － 650通(回収率51.9%)
 - － うち2000年以降に治療を受けたものは425通



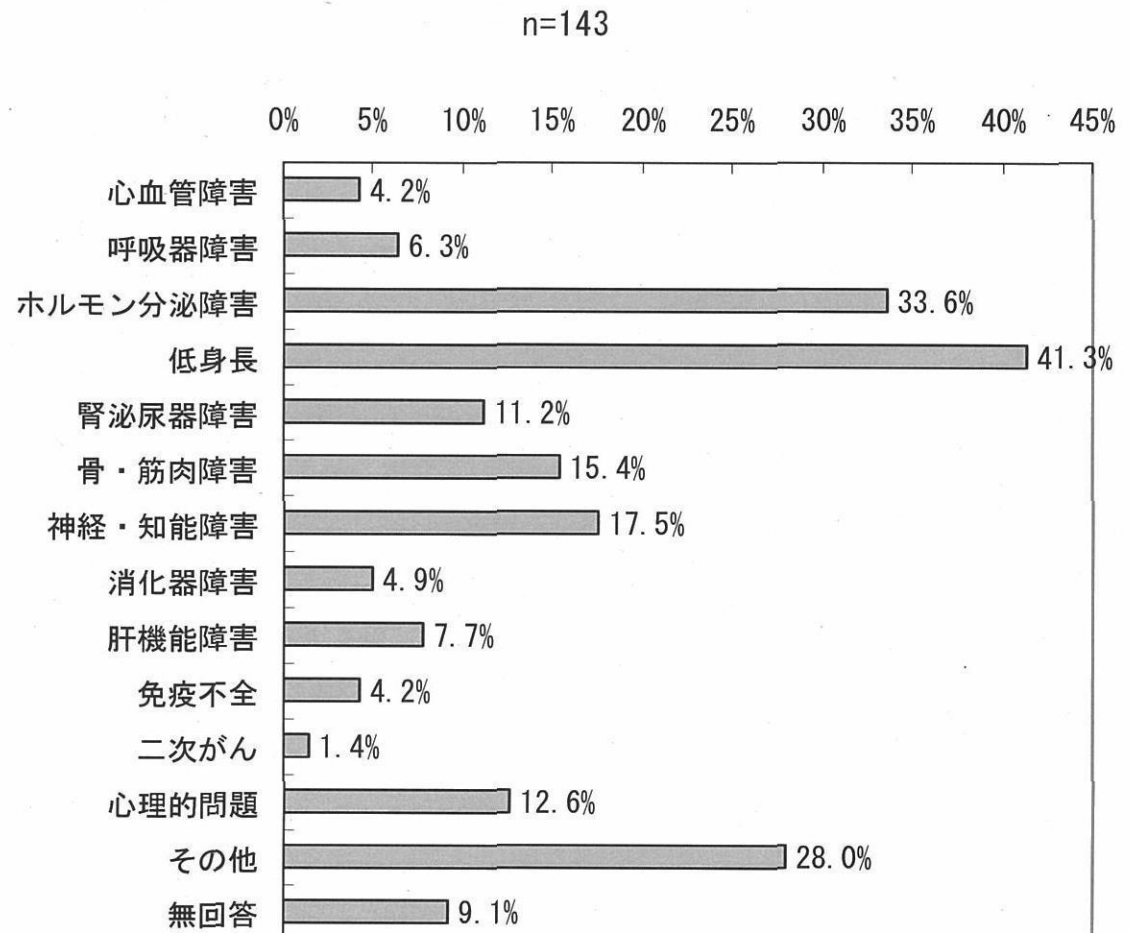
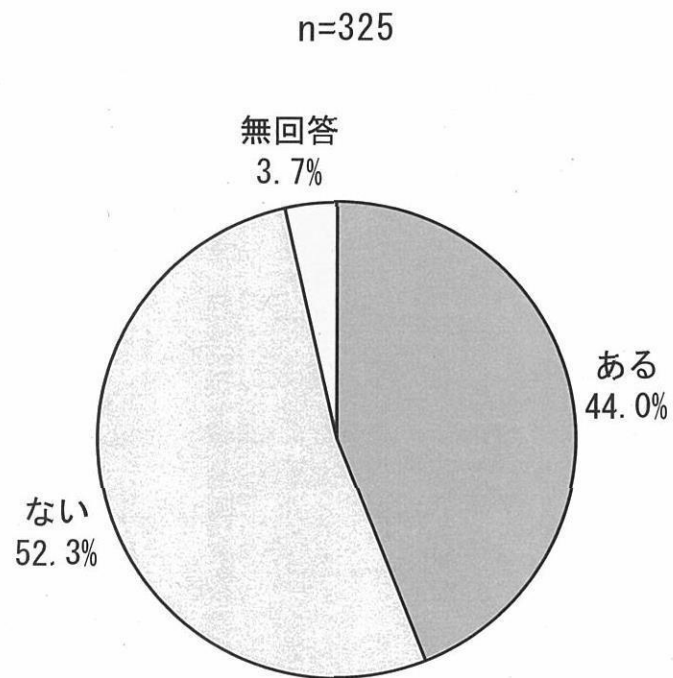
付き添いについて

n=425

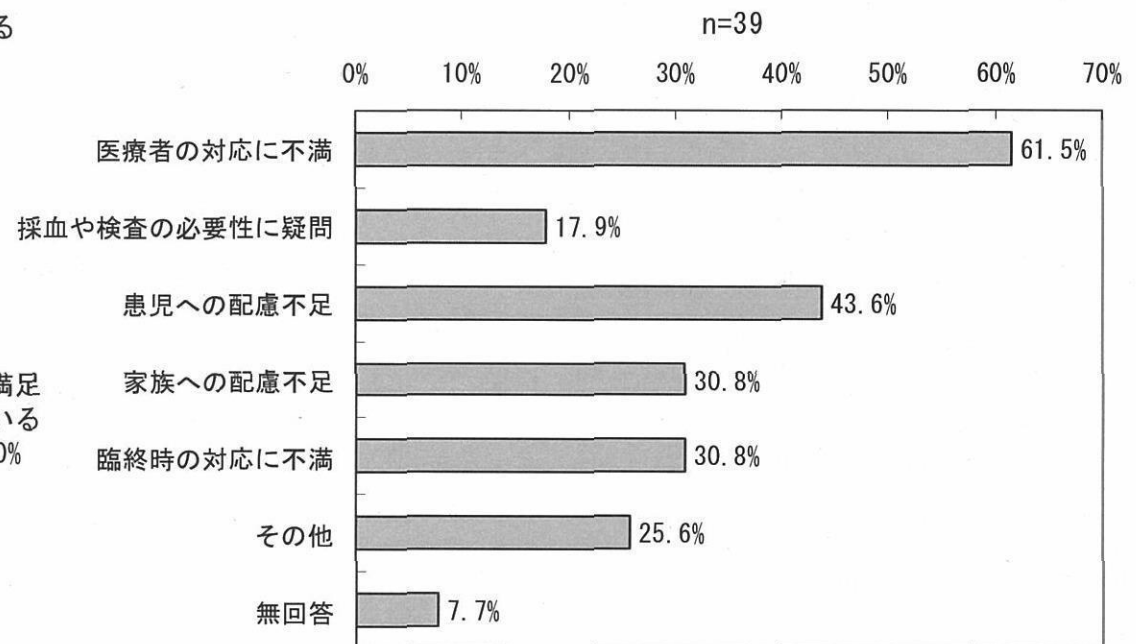
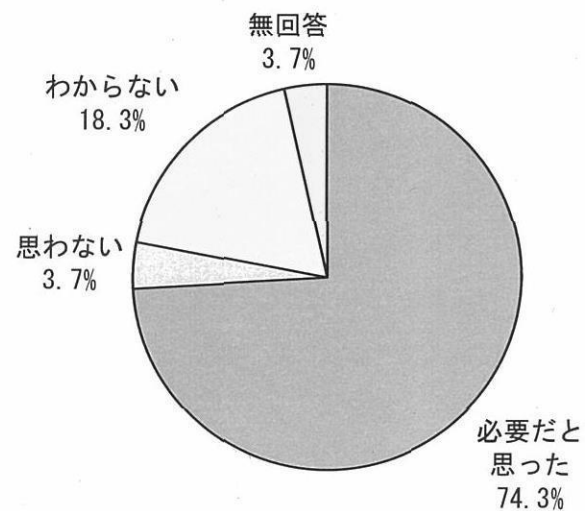
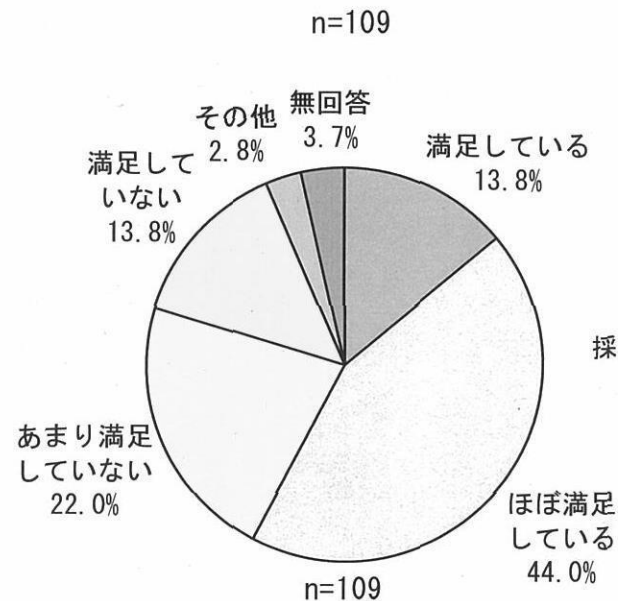
n=425



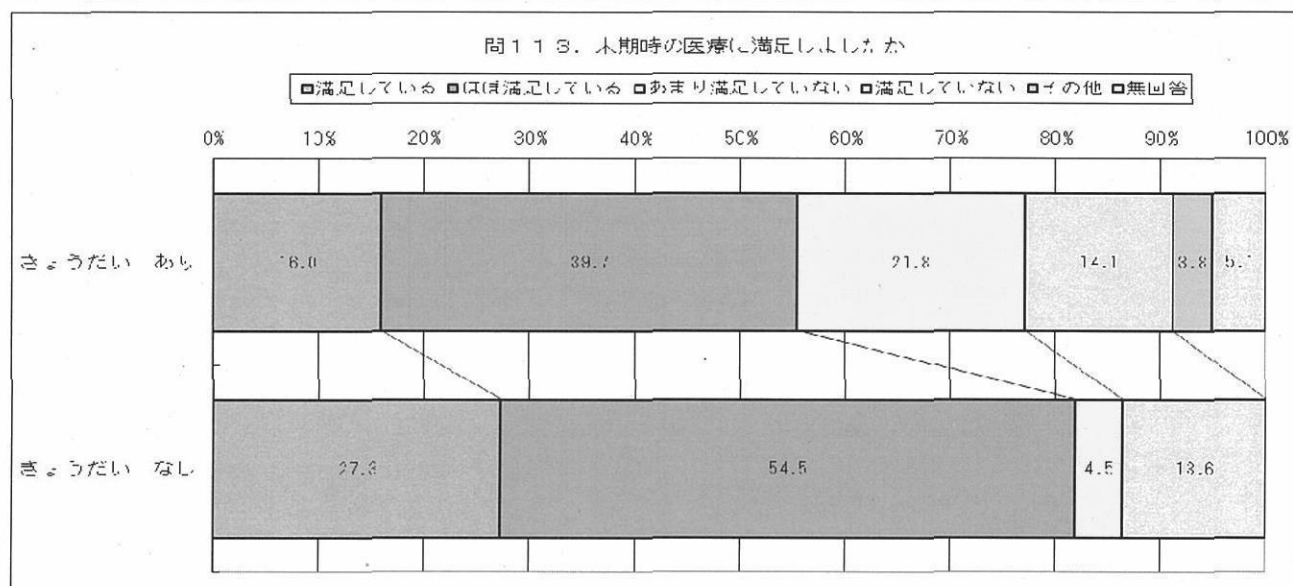
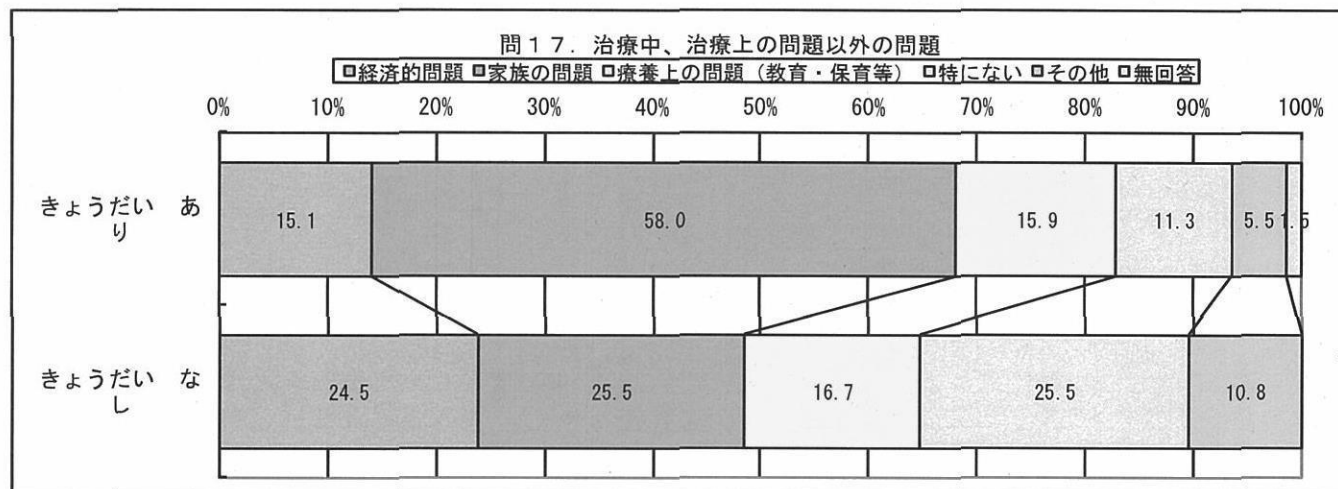
晩期合併症



終末期医療とビリーブメントケア(死別ケア)

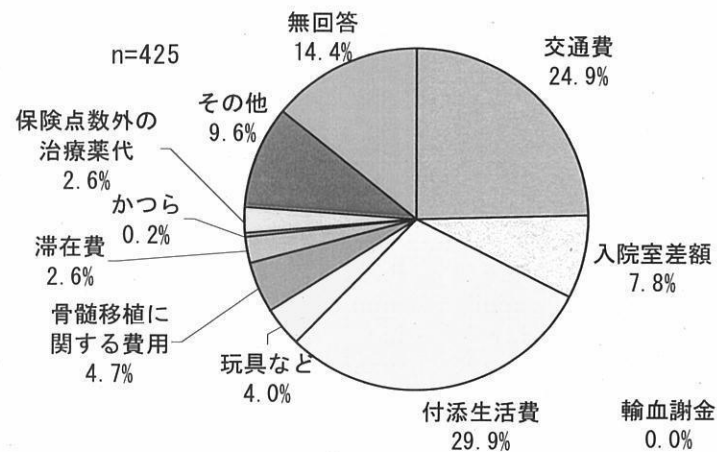
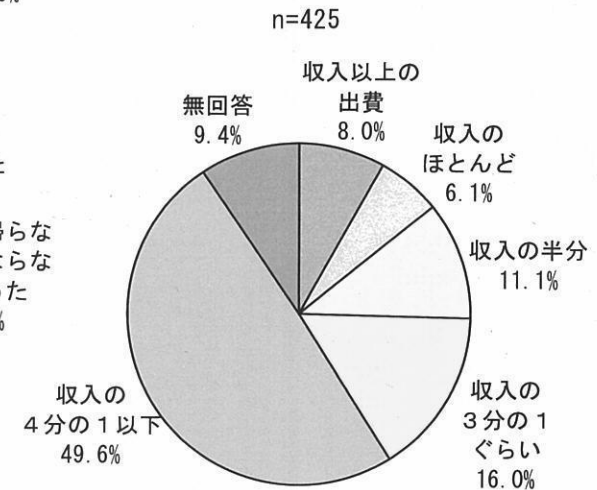
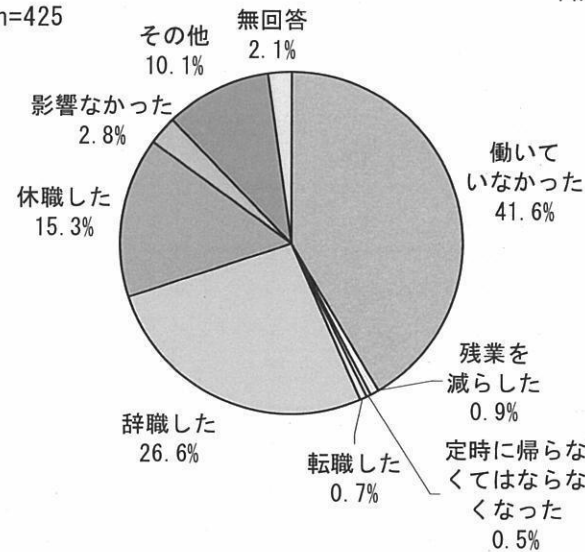
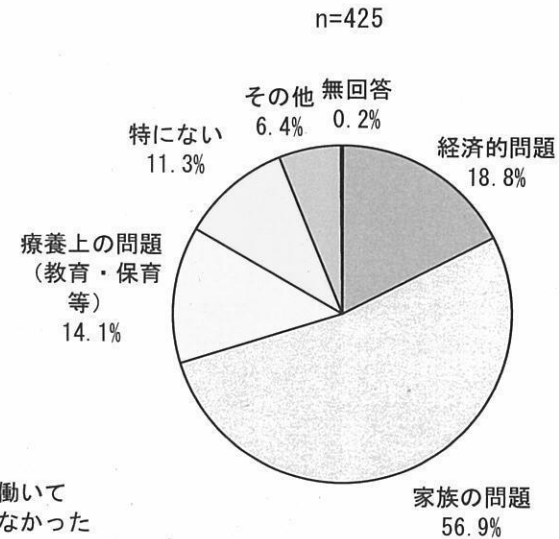
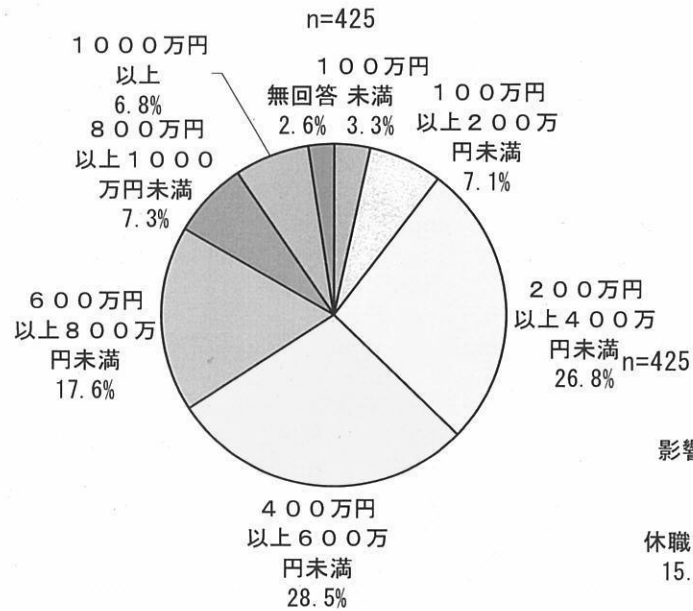


きょうだいの有無による差



治療中の問題

(年収、母の仕事、負担だった支出、治療関連の支出の占める割合)



治療を受けた際に不足していたもの

- 医師、看護師の多忙、人数不足(122)
- 患児・家族への精神的なケア(79)
- 付き添い者に対する適切な環境整備(64)
- 医療者の医療への取り組み姿勢(54)
 - 患児家族へのコミュニケーション不足(25)
 - 熱意、配慮、誠意が不足(20)
 - 病状説明、患児への説明不足(9)
- 教育、保育の機会(28)
- きょうだいへの支援(27)
- コメディカルスタッフ(37)
 - ソーシャルワーカー、保育士、心理士、
 - チャイルドライフスペシャリスト(CLS)
 - ホスピタルプレイスペシャリスト(HPS)

治療を受ける病院の選択基準は？

(自由記載)

- 治療関連(346)
 - 治療成績、症例数などの実績(128)
 - 専門スタッフがいる(112)
- 自宅からの距離(124)
- 医療者の取り組み姿勢(120)
- 療養環境(99)
 - 患児のQOLが重視されている(28)
 - 患児家族への精神的ケア(27)
 - 付き添い(面会)制限が柔軟(22)
 - 学習環境(22)

モデル病院の要件の考え方

- 英国調査と患者アンケート結果等をもとに患者ニーズに即した要件を選定
 - 特に、小児特有の項目
- がん診療連携拠点病院要件は、原則小児でも必要ではないか。
- 現行のがん診療連携拠点病院要件と同様、段階的に整備することが求められるものは「望ましい」と表現してはどうか。

集学的治療の提供体制と標準治療等の提供

	国指定地域がん 拠点病院要件	大阪府指定小 児がん 拠点病院要件	小児血液・がん 学会 研修施設認定 要件	小児がん拠点病院 要件案
5大がんについて集学的治療及び緩和ケアを提供する体制を有するとともに、各学会の診療ガイドラインに準ずる標準治療等適切な治療を提供している。	必須	必須、但し放射線治療は連携で可		造血器腫瘍、脳腫瘍、骨軟部肉腫、その他の固形がんに対応できる。放射線治療は必須、ワンストップでの治療が可能
5大がん以外の各医療機関が専門とするがんについて集学的治療及び緩和ケアを提供する体制を有するとともに、各学会の診療ガイドラインに準ずる標準治療等適切な治療を提供している。	必須			
クリティカルパスの整備	必須	必須		現時点では整備されていない
キャンサーボードの定期的開催	必須	望ましい	必須	必須

化学療法、放射線療法の提供体制

	国指定地域がん 拠点病院要件	大阪府指定小児がん 拠点病院要件	小児血液・がん学会 研修施設認定要件	小児がん拠点病院要件 案
機能				
外来において化学療法を提供する体制の整備	必須	必須		必須
急変時の外来患者の入院が可能	必須	望ましい		必須
レジメン審査委員会の設置	必須	望ましい		必須
診療従事者				
化学療法専門医の専従または専任	必須、常勤が原則 必須	専従、専任が必須、常 勤が望ましい	学会認定指導医	常勤かつ専従が必須
同上薬剤師が常勤かつ専従または専任	必須	常勤		常勤
外来化学療法室における同上看護師が常勤かつ専 従または専任	必須	外来に常勤を配置		外来に常勤を配置
放射線療法				
放射線治療専門医が専従または専任	必須、常勤が原則 必須	連携で可	診断または治療専門医 が常勤	連携で可
診療放射線技師が常勤かつ専従	必須	行う場合は必須		必須
精度管理の技術者が常勤	必須	同上		必須

緩和ケア

	国指定地域がん 拠点病院要件	大阪府指定小児がん 拠点病院要件	小児血液・がん学会 研修施設認定要件	小児がん拠点病院要件 案
緩和ケアの提供体制				
緩和ケアチームの整備と組織上の明確な位置 づけ	必須	必須	活動している	必須
緩和ケア外来	必須	望ましい		望ましい
緩和ケアチームのカンファレンスの定期開催	必須	必須		必須
退院時のかかりつけ医との連携	必須	必須		必須
相談窓口を設けるなど、地域医療機関との連 携協力体制の構築	必須			望ましい
身体症状の緩和を行う専門的な医師	専任が必須、原則 として常勤	必須、原則として常 勤、専任が望ましい		常勤が必須、専任が望 ましい
精神症状の緩和を行う専門的な医師	必須、専任かつ常 勤が望ましい	望ましい		必須、常勤かつ専任が 望ましい
緩和ケアの専門的な看護師	常勤かつ専従が 必須	常勤が必須		常勤が必須
協力薬剤師	望ましい	望ましい		望ましい
協力心理士	望ましい	望ましい		望ましい

病理、病診連携

	国指定地域がん 拠点病院要件	大阪府指定小児がん 拠点病院要件	小児血液・がん学会 研修施設認定要件	小児がん拠点病院 要件案
病理診断				
専門医の専従	必須、常勤が原則必須	連携で可	病理学会専門医が常勤	必須
細胞診断士	望ましい	望ましい		望ましい
病病連携、病診連携				
受け入れ、地域への紹介	必須	必須		必須
地域医療機関からの診断、治療に 関する相談に対する連携体制	必須	必須		必須
地域連携パス	必須			望ましい (遠方の場合)
退院時に地域医療機関と共同で 診療計画を作成	望ましい			望ましい (遠方の場合)
セカンドオピニオンの提供体制				
セカンドオピニオンの提供体制	必須	必須		必須

医療施設

	国指定地域がん 拠点病院要件	大阪府指定小児 がん 拠点病院要件	小児血液・がん学会 研修施設認定要件	小児がん拠点病院 要件案
医療施設				
年間延べ入院患者数が1200人以上	望ましい		3年間で初発例20例以上	年間の初発例30例 以上
放射線治療装置	必須		連携施設でも可	必須
外来化学療法室の設置	必須	望ましい		望ましい
集中治療室の設置	望ましい	望ましい		必須
がん患者が心の悩みや体験等を話し合うための場を設けている	望ましい	望ましい		望ましい
敷地内禁煙	必須	必須		必須

情報の収集提供体制

	国指定地域がん 拠点病院要件	大阪府指定小児 がん 拠点病院要件	小児血液・がん学会 研修施設認定要件	小児がん拠点病院 要件案
情報の収集提供体制				
相談支援センターの設置	必須			必須
一般的な情報の提供	必須	必須		必須
診療機能、待ち時間、医師の専門分野 と経歴などの地域医療機関の情報収集 と提供	必須			望ましい
セカンドオピニオンが可能な医師の紹介	必須			必須
療養上の相談を行っている	必須			必須
地域との連携の事例に関する情報の収 集、提供	必須			望ましい
その他の相談支援	必須			必須
広報を行っている	必須			必須
がん対策情報センターでの研修	必須			必須
院内及び地域の医療従事者の協力を得 て、院内外の患者と家族、地域住民、医 療機関からの相談に対応する体制	必須			必須
相談支援について経験のある患者団体 との協力連携体制	必須			望ましい
院内、地域がん登録と情報センターへの 報告	必須			必須

小児診療に必要と考えられる要件①

	大阪府指定小児がん 拠点病院要件	小児血液・がん学会 研修施設認定要件	小児がん拠点病院要件案
施設要件と医療機能			
長期フォローアップ外来		必須	必須
15歳以上の患者の集学的治療		望ましい	望ましい
倫理委員会の設置と臨床試験への参加	必須	必須	必須
治験管理室がある		必須	必須
医療機能評価機構認定を受けている		望ましい	望ましい
骨髄バンク、臍帯血バンクの認定施設	協力施設でも可	必須	必須
小児がんの化学療法部門が独立した診療科である		望ましい	望ましい
患児、家族支援、療養環境			
院内学級	望ましい	必須(訪問教育で可)	必須(訪問教育でも可)
退院時の復学支援を行っている			必須
復学支援のための専任の社会福祉士を配置している			望ましい
プレイルーム			必須
24時間希望する時に面会、付き添いができる			必須
患児のきょうだいの保育を行っている			望ましい
専任の心理士による患児とその家族の精神的ケアを行っている			望ましい
敷地内または近隣に家族長期滞在施設がある	望ましい	望ましい	望ましい

小児診療に必要と考えられる要件②

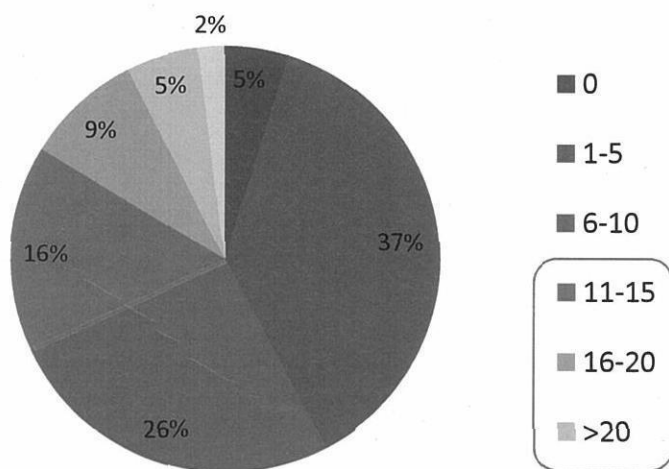
	大阪府指定小児がん 拠点病院要件	小児血液・がん学会 研修施設認定要件	小児がん拠点病院要件案
診療従事者			
小児血液がん学会指導医		常勤	望ましい
小児がん認定外科医		常勤	望ましい
保育士		必須	必須
ホスピタルプレイスペシャリスト、チャイルドライフスペ シャリストまたはそれに対応する職種			望ましい
心理士			望ましい
社会福祉士			望ましい

それ以外に必要と考えられる要件

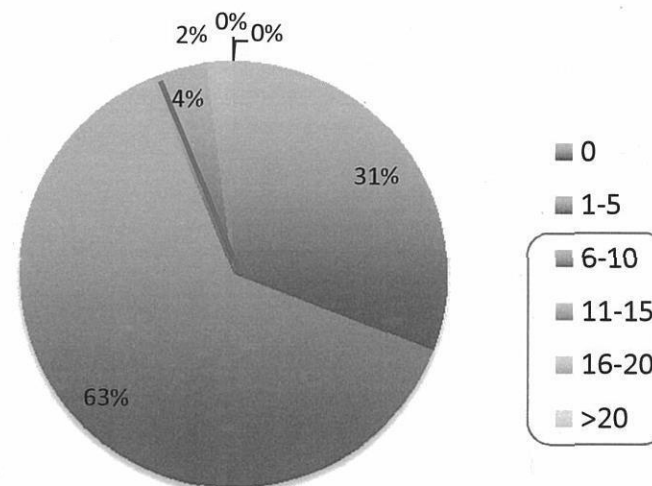
	大阪府指定小児がん 拠点病院要件	小児血液・がん学会 研修施設認定要件	小児がん拠点病院要件案
集学的治療の提供体制と標準治療等の提供			
小児外科、整形外科、脳外科の診療体制がある			必須
化学療法、放射線療法の提供体制			
抗がん剤の適応外使用の審議手続きが、院内で規定されている。			必須
レジメン内容について外部から監査を受けている			必須
医学物理士			望ましい
緩和ケア			
疼痛緩和の院内マニュアル			必須
院内で統一した疼痛の評価尺度			必須
病理診断			
必要時の外部へのコンサルテーション			必須
臨床グループとの合同カンファレンス			必須
他院からのコンサルテーションを受けている			望ましい
診療の質の担保			
Clinical (quality) indicatorを公表している			望ましい
施設相互のピアレビューを行っている			望ましい
診療情報管理士の配置			望ましい

日本小児白血病リンパ腫グループ参加施設へのアンケート調査(診療実績)129施設(回収率91%)

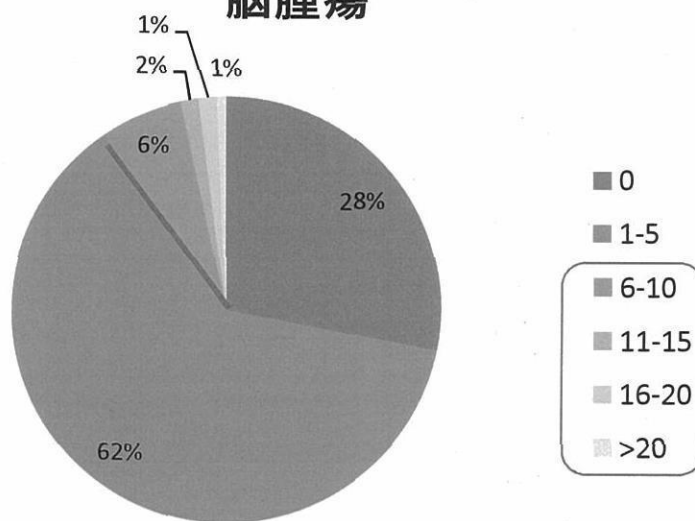
造血器腫瘍



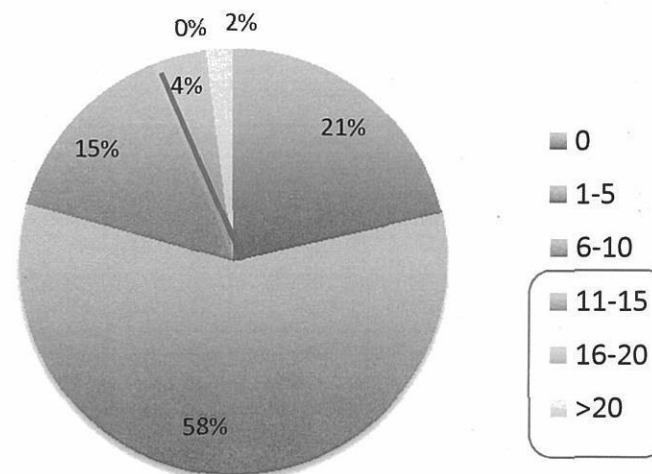
骨軟部腫瘍



脳腫瘍

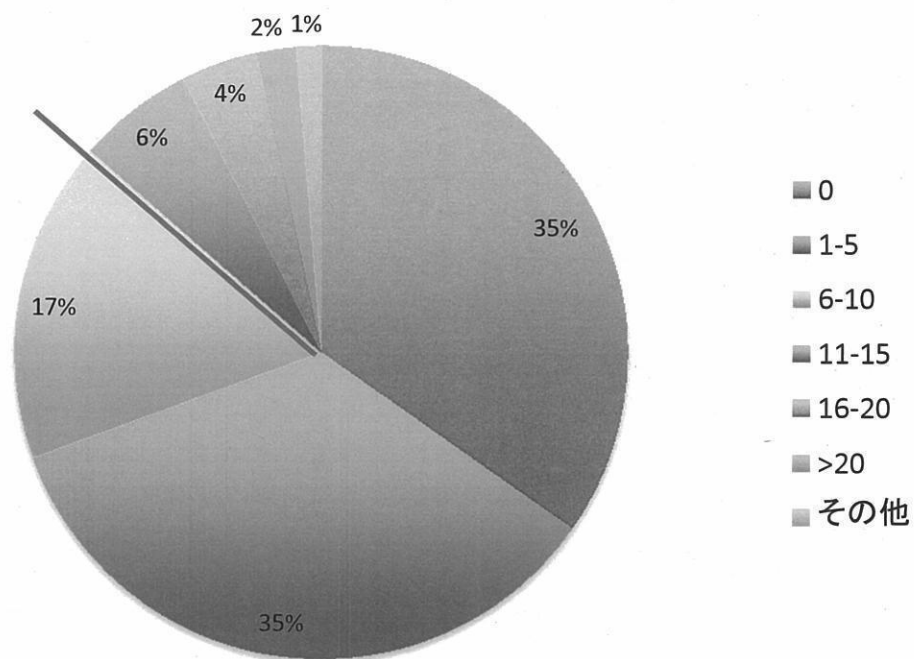


その他の固形腫瘍



日本小児白血病リンパ腫グループ参加施設へのアンケート調査(診療実績)129施設(回収率91%)

同種移植



診療実績を絞り込みの要件とすることについて

考え方

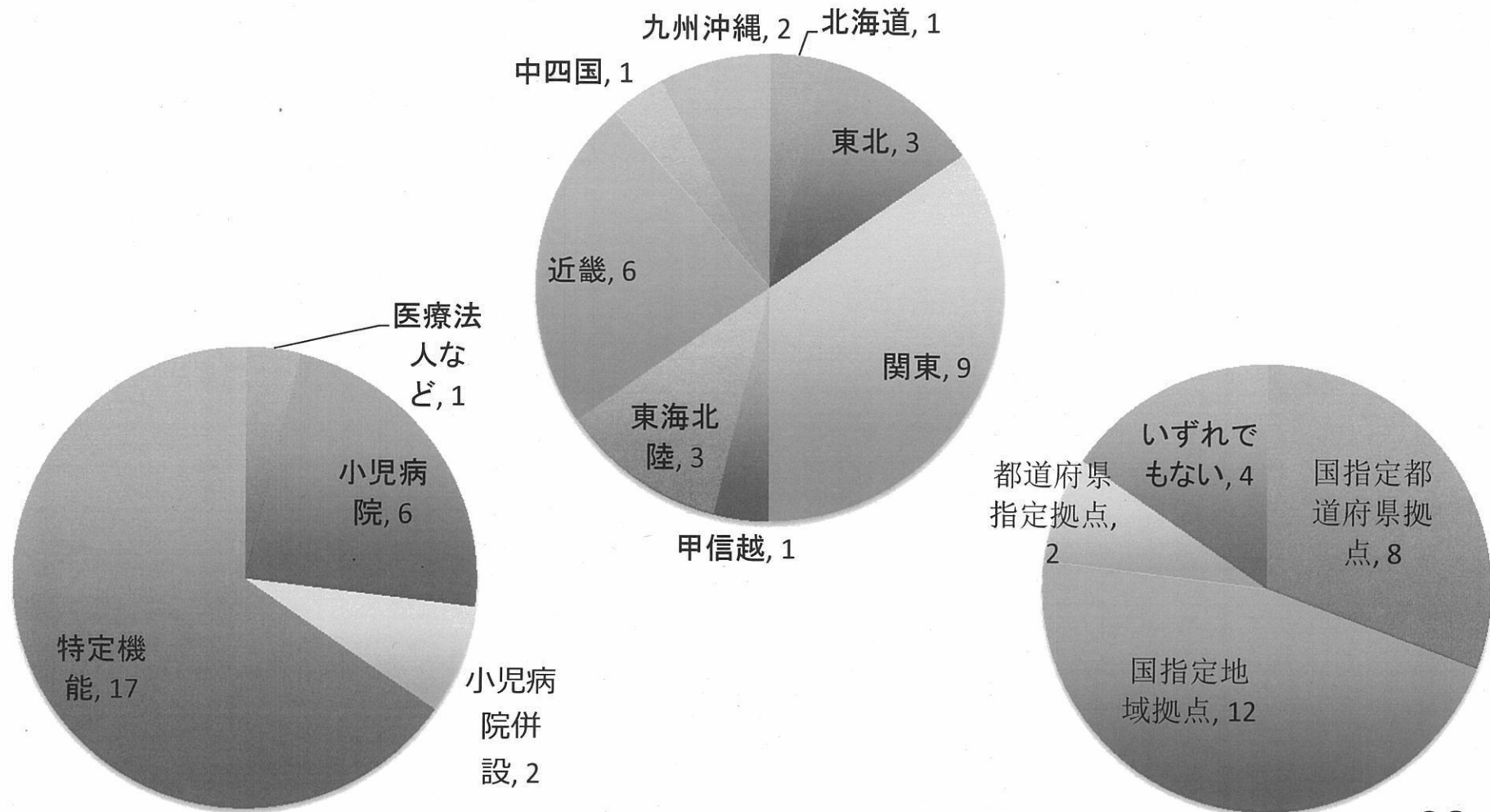
- 施設(インフラ)、診療支援体制の整備は後でも可能。
- 一方、質の高い診療を提供するためには、一定程度の診療実績は必要であり、患者アンケート結果からも診療実績を重視するべきではないか。
- さらに、すべての小児がんに対応可能な総合的小児がん診療を実施できることが必要ではないか。

要件案

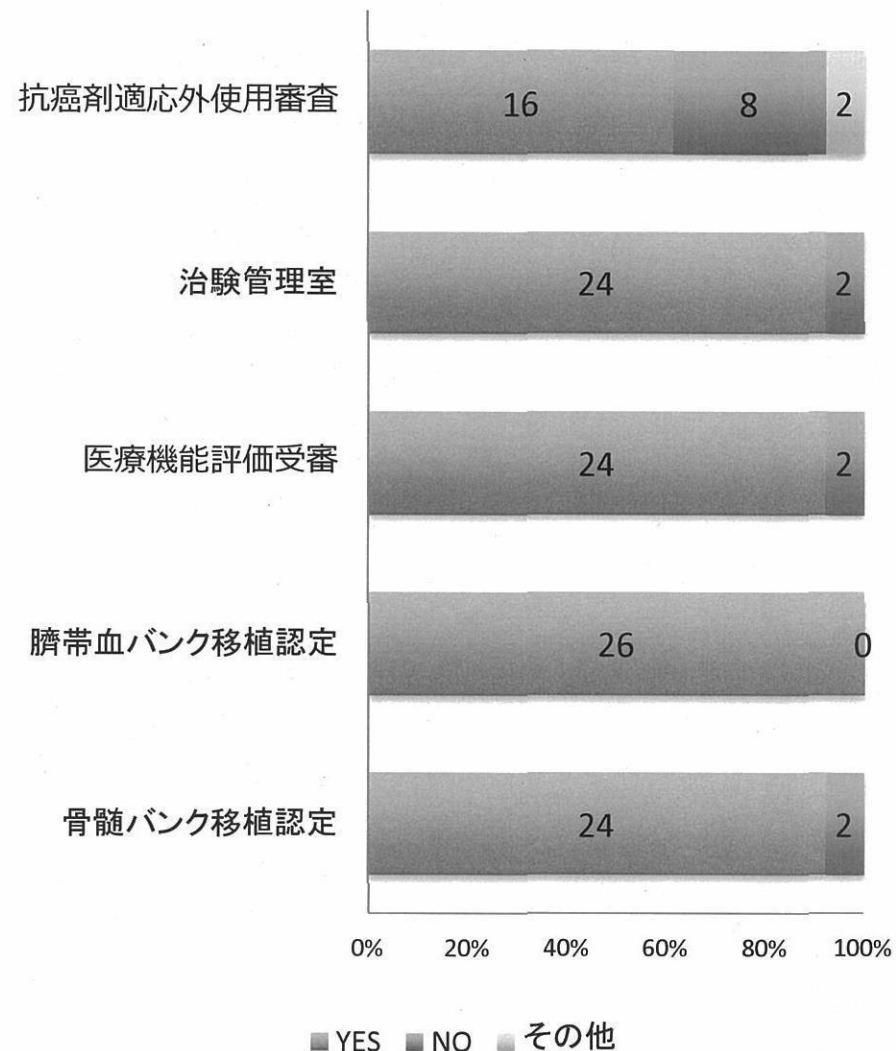
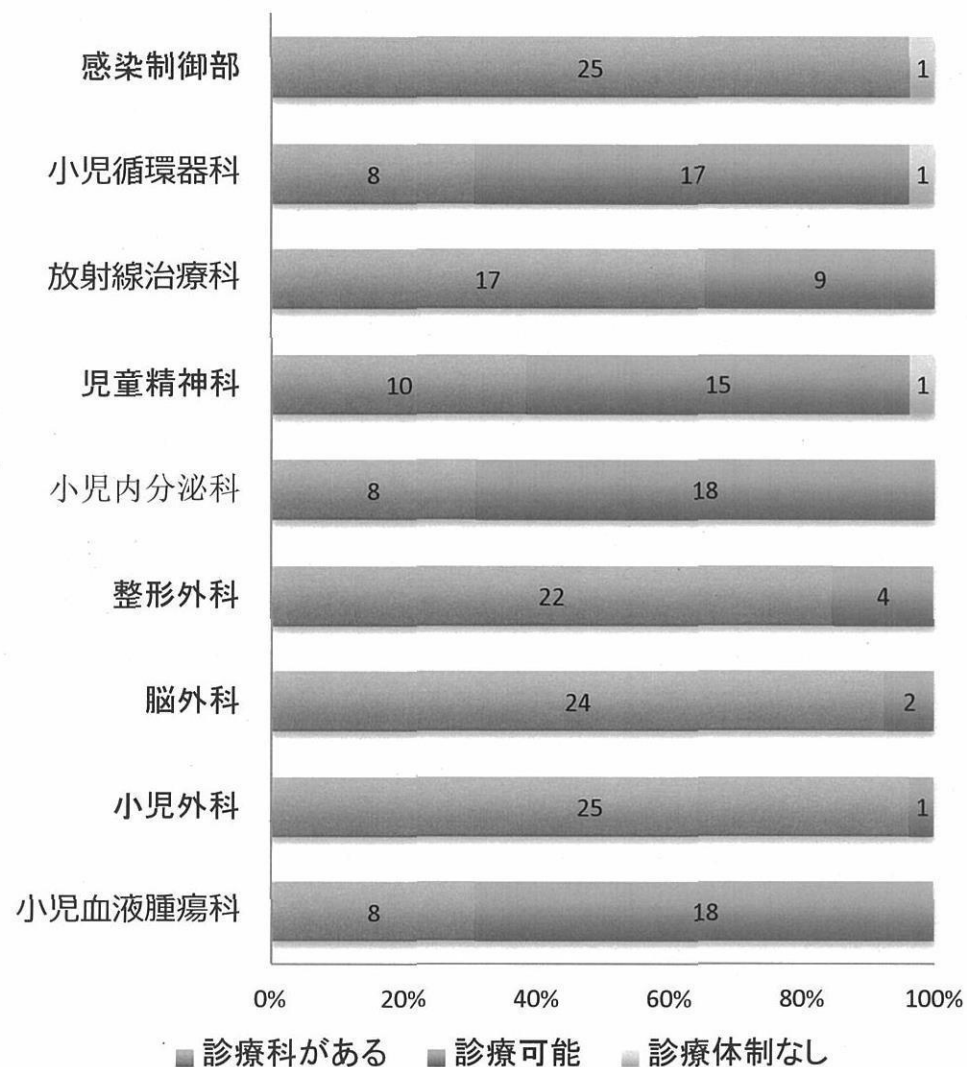
- 小児科、小児外科、整形外科、脳神経外科領域の診療が可能
- 造血器腫瘍：年間6例以上
- 脳腫瘍、骨軟部腫瘍、その他の固形腫瘍症例、および同種造血幹細胞移植が、すべて年間1例以上、かつこれらのうち一つ以上の疾患群または移植が6例以上

注) 症例数は自己申告で不正確なため、アンケートでゼロと回答した施設以外を広く包含するよう要件案を設定した。

これらの要件に適合すると考えられる 26施設の地域分布等

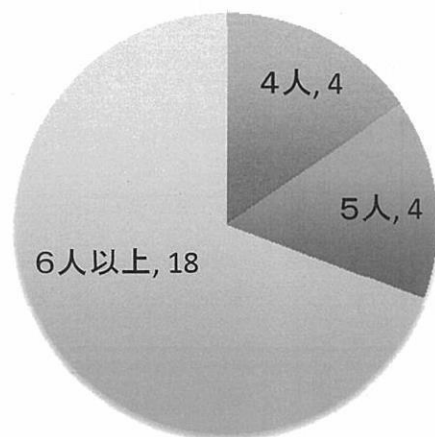


施設について

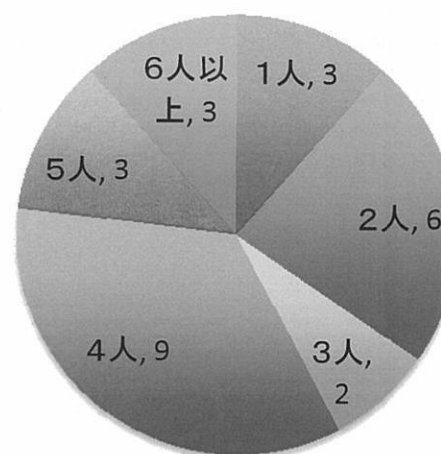


医師の配置状況について

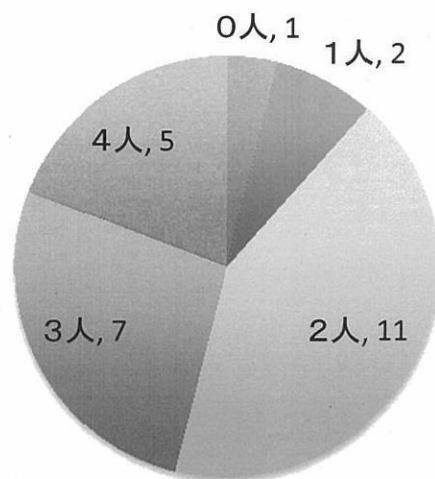
血液腫瘍担当常勤医



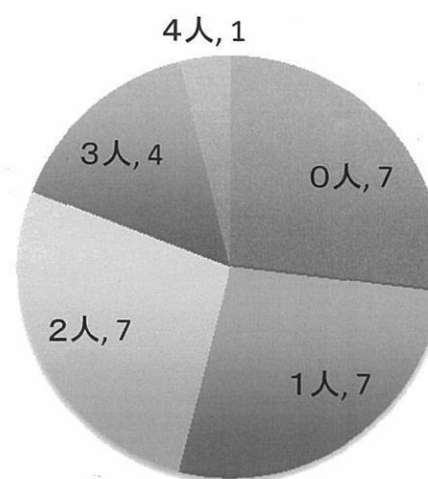
日本血液学会専門医



小児血液がん暫定指導医



がん治療認定医

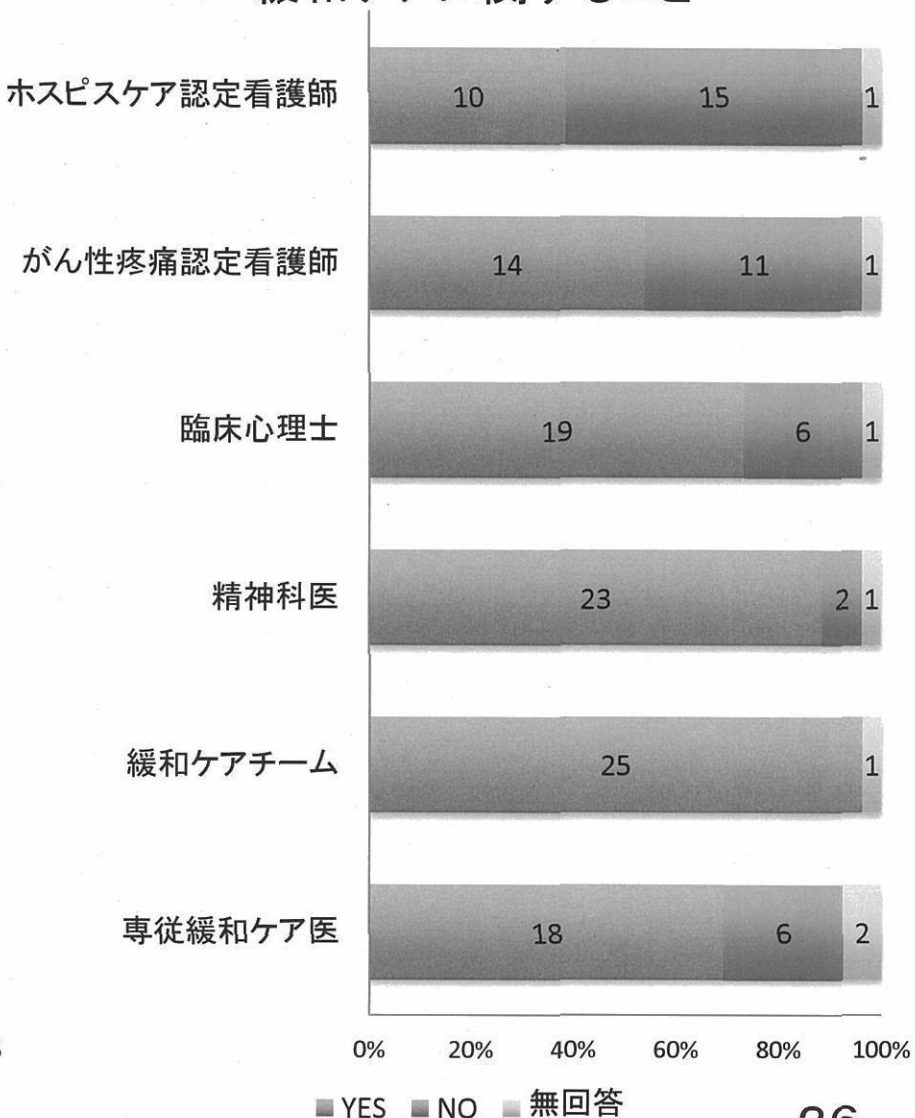


がん診療連携拠点病院の要件達成状況

化学療法に関すること

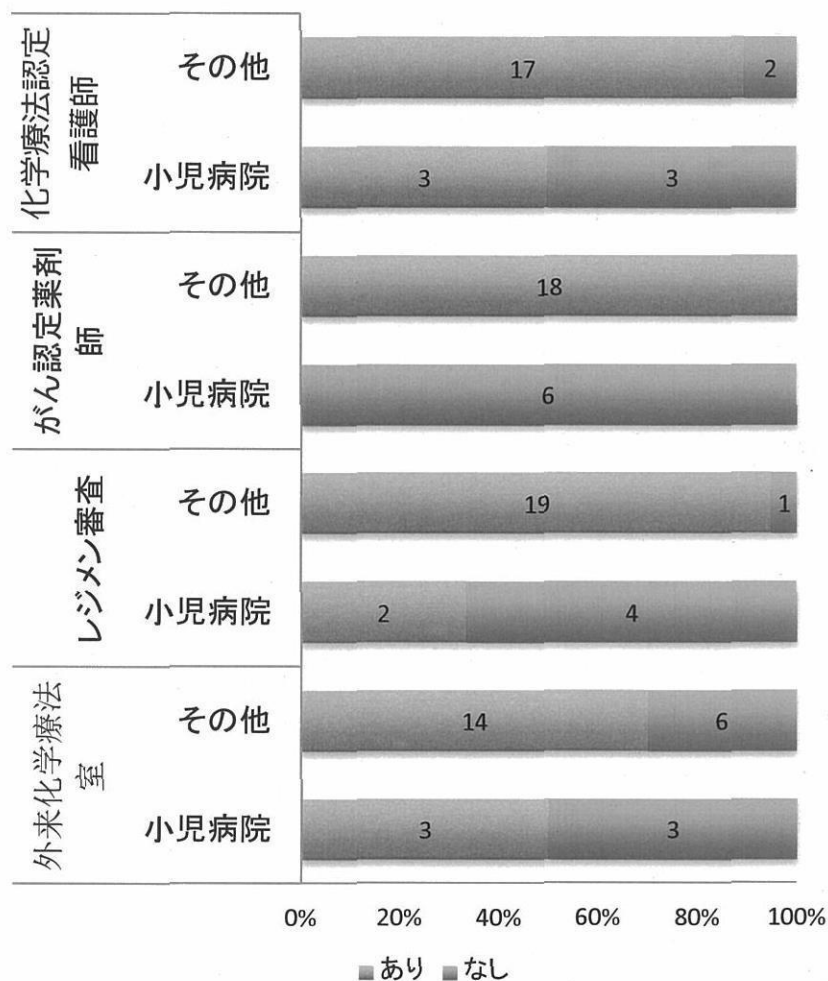


緩和ケアに関すること

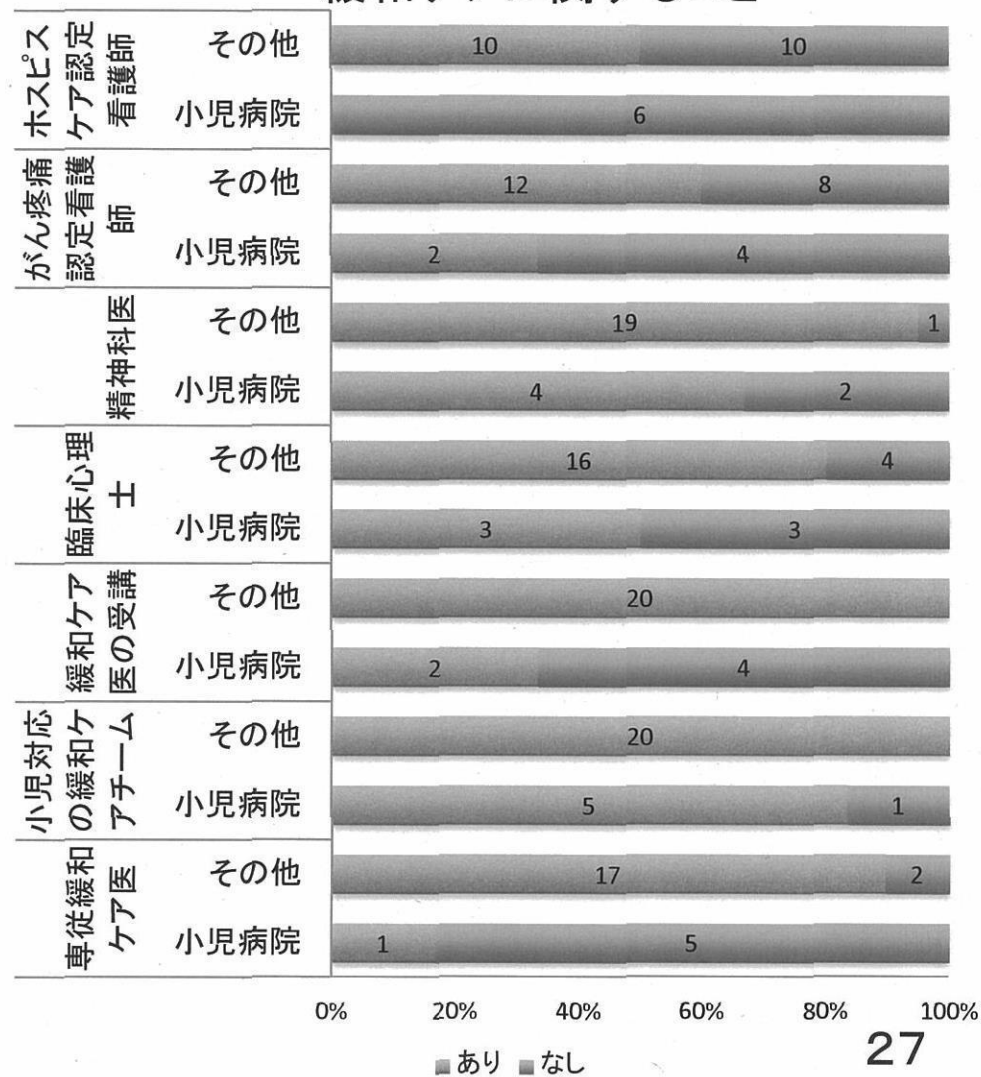


がん診療連携拠点病院指定要件の達成状況 の比較（小児病院とその他の病院）

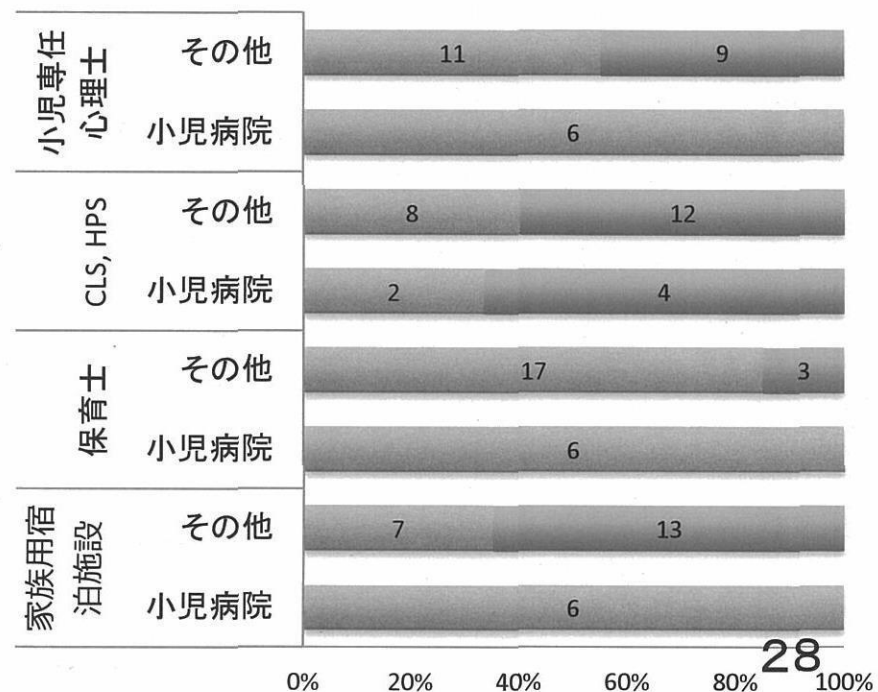
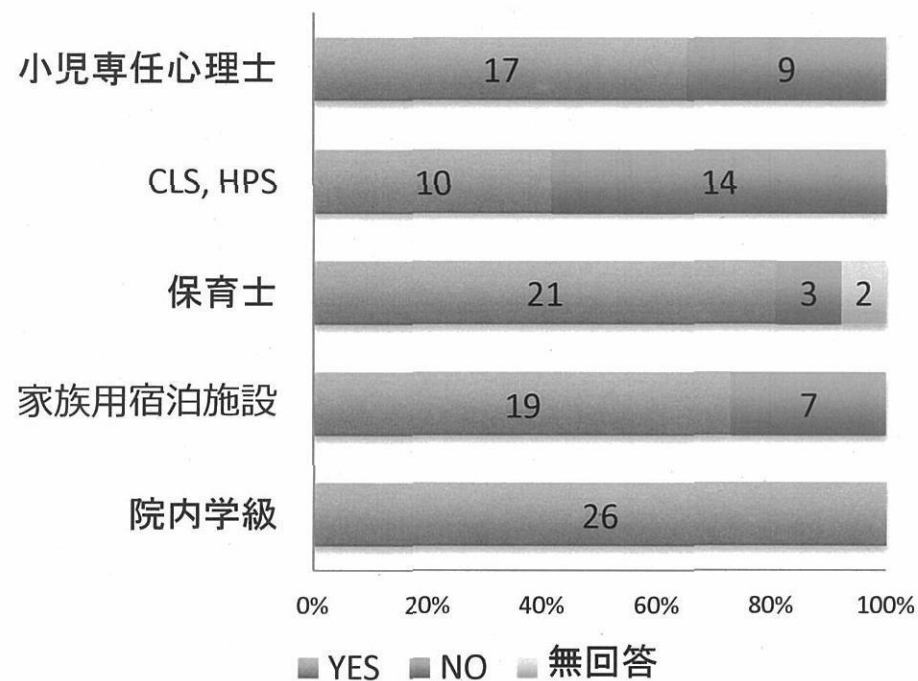
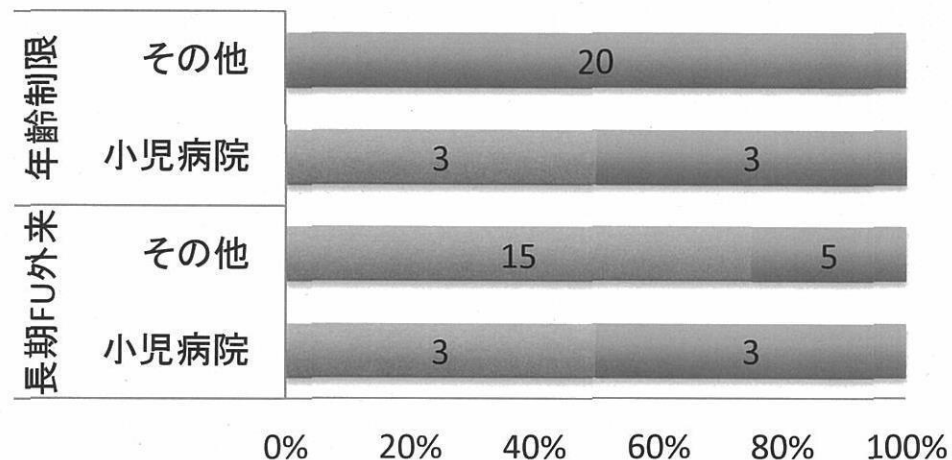
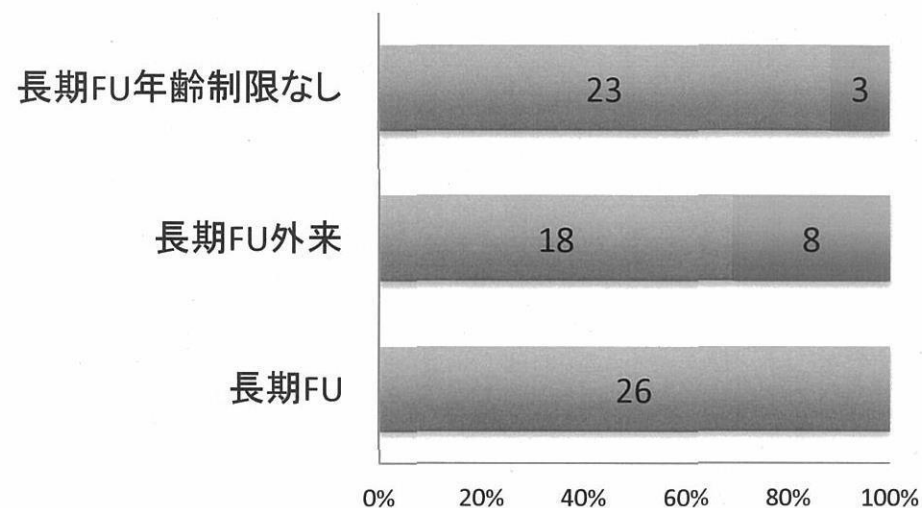
化学療法に関すること



緩和ケアに関すること



小児診療に必要な要件の達成状況



がん診療連携拠点病院の要件のうち 検討を要するもの

- 診療実績(今回の26施設はゆるい条件で絞り込んだ)
- 研修の実施、内容の標準化
- 小児がんの情報提供や相談支援の標準化
- 診療の質の担保(QIの作成と評価法)
- 病病連携、病診連携の具体的なあり方
- 要件の見直しと認定更新のあり方

まとめ

- 患者団体の声と、国のがん診療連携拠点病院の指定要件をもとに小児がんモデル病院の要件案を作成した。
 - 小児病院では、現行のがん診療連携拠点病院の要件を満たしていない割合が高いが、要件を満たしている特定機能病院でも、それらの要件が小児にも適用されているかは不明
- 今後の研究班の予定
 - 患者および元患者のアンケートを予定
 - 他の診療科のアンケート結果も盛り込む予定
 - 緩和ケア、地域連携、地域での患者支援、ボランティア団体との協働などについては、英国の調査結果を反映させて、案と同時に要件達成方法を提案
 - 他の患者団体の声などのパブコメも収集して最終案を作成